

各 位

武雄・杵島地区農業指導連絡協議会  
杵島農業改良普及センター

「稲作情報（第12号）」について（送付）。

このことについて、下記のとおり「稲作情報（第12号）」を送付しますので、業務の参考にしてください。この情報はホームページ（以下URL）にも随時公開しています。  
<https://www.pref.saga.lg.jp/kiji00323270/index.html>

杵島農業改良普及センター

検索

1. 気象概況

アメダス観測値（白石）

月	半旬	平均気温			最高気温			最低気温			降水量			日照時間		
		平年 (°C)	R2 (°C)	平年差 (°C)	平年 (°C)	R2 (°C)	平年差 (°C)	平年 (°C)	R2 (°C)	平年差 (°C)	平年 (mm)	R2 (mm)	平年比 (%)	平年 (hr)	R2 (hr)	平年比 (%)
7月	1	25.2	23.6	-1.6	29.2	28.1	-1.1	22.1	20.5	-1.6	81.6	16.5	20	18.8	18.1	96
	2	25.9	24.6	-1.3	30.1	27.3	-2.8	22.8	21.9	-0.9	68.8	541.0	786	22.8	9.3	41
	3	26.6	24.1	-2.5	30.9	26.9	-4.0	23.3	21.9	-1.4	58.3	57.5	99	25.5	2.0	8
	4	27.1	25.7	-1.4	31.7	30.5	-1.2	23.7	22.5	-1.2	48.5	16.5	34	28.7	32.9	115
	5	27.5	26.3	-1.2	32.4	29.4	-3.0	23.9	24.2	0.3	39.2	69.0	176	32.9	9.6	29
	6	27.8			32.9			24.1			36.3			42.8		

- 7月の気温は、平年に比べて1～2℃ほど低く推移した。また、7月5半旬は、断続的な降雨により日照時間は平年比29と少ない。梅雨明けは平年に比べ1日遅い7月30日ごろとなった。
- 梅雨入り後、50mm以上の降雨量が観測された日は以下のとおり。  
6/18～19（65mm）、6/25～27（189.5mm）7/6～7（354.5mm）、7/9～11（192mm）、  
7/23～24（63mm）、7/27（108mm）。

2. 情報田生育概況（調査日：7月27日）

項目 品種(設置場所)	年次	草丈 cm	茎数 本/m <sup>2</sup>	主稈 出葉数L	葉色 SPAD	概 要
夢しずく 6/14移植 武雄市橋町	本年値	76.8	411	11.3	42.8	<ul style="list-style-type: none"> <li>草丈は平年並み、茎数は平年より多い。（茎数22本/株）</li> <li>主幹出葉数は平年より0.3葉少ない。（平年より3日程度遅い）</li> <li>葉色は平年よりやや濃い。</li> <li>幼穂長1mm</li> </ul>
	平年値	77.0	386	11.6	38.5	
	平年比	100	106	-0.3	+0.3	
さがびより 6/20移植 武雄市橋町	本年値	59.0	428	10.8	41.2	<ul style="list-style-type: none"> <li>草丈は平年並み、茎数は少ない。</li> <li>主稈出葉数は平年並み。</li> <li>葉色は平年並み。</li> <li>移植15,25日後の落水実施済み。</li> </ul>
	平年値	59.1	456	10.8	41.4	
	平年比	100	94	±0.0	-0.2	

※夢しずくの平年値はH21～R1の平均値、耕種概要は稲作情報No7参照

※さがびよりの平年値はH21～R1の平均値。耕種概要は稲作情報No9参照

### 3. 管内の生育状況（7月30日時点）

1) セタコシヒカリ：現在、黄熟期となっている。  
出穂後の気温が低く日照不足で推移しているため登熟は緩やかである。

2) 夢しずく（山間早植え）：5月下旬移植夢しずくで出穂期である。  
《参考》管内における夢しずく生育状況：7/30 時点

移植時期（市町）	生育ステージ	備考
5/23 移植（北方町）	出穂期直前	出穂期 8/1 頃

3) 夢しずく（普通期）：現在、幼穂形成期～穂孕期である。移植後の日照不足の影響を受けて、全般的に軟弱徒長ぎみの生育であり、葉色のさめは遅れている。

《参考》管内における夢しずく生育状況：7/30 時点

移植時期（市町）	生育ステージ	備考
6/10 移植（白石町）	幼穂形成始期	幼穂長 3mm

4) ヒノヒカリ・さがびより：分けつ盛期である。夢しずく同様に多雨日照不足の影響で、情報田のデータは同等であるが、全般的に草丈は高く茎数は少なく、軟弱徒長の生育である。

### 4. 今後の管理

#### 1) セタコシヒカリ

##### (1) 水管理

「コシヒカリ」は、黄熟期です。

断続的な降雨により土壌表面が柔らかくなり、野菜跡地など葉色が濃い圃場において一部倒伏を確認している。収穫時期も近づいていることから、倒伏が確認される圃場は、落水期間を長めにして土壌表面を固める作業を行う。

なお、出穂期以後の水管理は、根への酸素供給を図るためにも常時湛水するのではなく間断灌水（潤土管理）を行う。登熟（米の充実）を良くするため、収穫1週間前までは黒乾状態を保つ。

#### 2) 山間早植え水稻（主に夢しずく）

- ・幼穂形成期から出穂期にかけては要水量が増加する時期ですが、湛水状態を長く行うと田面がやわらかくなることと根を傷めるので引き続き間断灌水を行う。ただし、穂孕み期から出穂期は浅水管理に努める。
- ・本年は山間早植え水稻において「いもち病」が確認されているので、発生状況等によっては臨機防除を行う。

#### 3) 夢しずく（普通期）

- 現在、幼穂形成期であり、穂肥施用時期となる。本年は初期生育量が確保できていない圃場が多く全般的に葉色は濃い。穂肥の施用に際しては、下記の穂肥診断基準に基づいて適期適量施用する。夢しずくの幼穂は、1～2mmになるまでは伸長が緩慢ですが、3mm以上になると急激に伸長することから、穂肥の施用が遅れないように注意する。

【夢しずくの穂肥診断基準】

草丈 cm 幼穂形成始期時	葉 色		穂肥施用時期			
	群 落	SPAD	出穂前	幼穂長	穂肥施用量 (N成分:kg/10a)	
7.3 cm 以下	淡い	3.0 以下	34 以下	20～22 日	1mm	2.0kg/10a
	標準 濃い	3.0～3.5 3.8 以上	34～38 39 以上	18～20 日	2mm	1.5kg/10a
7.3 cm ～ 7.9 cm	標準	3.0～3.5	34～38	穂肥は施用しない		
	濃い	3.6 以上	39 以上	18～20 日	2mm	1.0kg/10a
8.0 cm 以上	穂肥は施用しない					

#### 4) 普通期水稻（さがびより、ヒヨクモチ

- ・7月に入り気温は低く日照不足の影響もうけて出葉展開が緩やかとなっている。
  - ・移植後の長雨曇天の影響を受けて、生育は全般的に茎数不足で推移している。
- 現在、中干し作業の時期をむかえている。中干し作業に移行するうえで、有効茎歩合（1株あたり20本目安）確保できていない場合は、強めの中干しを控え、幼穂形成期までに軽めの中干しとするなど、茎数の確保に努める。

なお、中干し作業に移行する際の草丈の目安は、本来なら「ヒノヒカリ」及び「さがびより」は40～50cmの間である。

中干し期間は5～7日天候や土壌の種類、漏水の程度などによって変わってきますが、圃場の硬さの目安は軽く足跡が付く程度で、小さなヒビが入るくらいです。

つまり「歩いて足跡が付くが抵抗なく歩ける硬さ」が理想。

今年は全般的に茎数が少ないため、手のひらが縦にはいるようなヒビ（強い中干し）は、強い断根を伴い稲にとってダメージが大きくなるので避ける。



#### 軽めの中干し（黒乾状態）

土壌表面に小さなヒビが入るくらい  
また、歩いて足跡が軽くつくが、抵抗なく歩ける硬さ。

写真は、情報田（夢しずく）圃場を撮影。

#### (3) 病害虫の発生状況

- ・8月の病害虫予察情報（7月30日付け佐賀県農業技術防除センター発表）によると主要病害虫の発生量は以下のとおり。

作物名	病害虫名	平年比	前年比
水稻 (早植え)	穂いもち	並	やや多
	紋枯病	並	並
	トビイロウンカ	多	並
	コブノメイガ	多	多
水稻 (普通期)	斑点米カメムシ類	やや多	やや多
	穂いもち	やや多	やや多
	紋枯病	並	並
	白葉枯病	並	並
	もみ枯細菌病	並	並
	トビイロウンカ	多	多
	コブノメイガ	多	多
フタオビコヤガ	並	並	
	斑点米カメムシ類	やや多	やや多

## 1) いもち病

- ・葉いもちの発生がみられる圃場では、穂ばらみ期の防除を徹底するとともに、発生が多いと予想される場合（上位3葉に葉いもち病の病斑を確認した時）には穂揃い期にも防除を行う。  
薬剤の使用にあたっては、使用時期や回数等の農薬の登録情報に注意する。
- ・圃場内に放置されている補植苗は「いもち病」や「ごま葉枯病」の温床になるため、すみやかに除去する。
- ・いもち病は、葉色が濃い圃場で病斑（進展型病斑）を確認している。  
特に、風により茎葉の損傷や稲体の活力低下なども加わっているため、葉いもち発生に注意して観察し進展型病斑が認められれば臨機防除を実施する。
- ・窒素過多は発生を助長するので、適切な肥培管理を行なう。



葉いもち病の病斑  
葉色が濃い圃場にて確認

## 2) ウンカ類

- ・7月22日付け佐賀県農業技術防除センターより『病害虫発生予察注意報（トビイロウンカ）』及び『病害虫発生予察注意報（コブノメイガ）』が報告された。  
本年は、6月10～15日頃、5月25～28日頃、7月6日～11日頃を中心にトビイロウンカが断続的に飛来し、（梅雨明けしていないので、今後の飛来状況によって留意する） 県内のライトトラップでの6月1日～7月25日までの総捕獲数は、10年間の中で最も多い。  
最新データは、佐賀県農業技術防除センターHP等を参照する。
- ・今後の飛来状況や圃場の発生状況（移植時期や品種、箱施用剤の種類、施用の有無、圃場の場所等）によってウンカ類の発生量や増殖率が異なるため、ひきつづき圃場での発生状況に注意する。
- ・7月27日～30日巡回調査では、トリフルメゾピリム剤を使用していない圃場でのトビイロウンカの定着率が高いことが分かっているため、孵化ごろい期の薬剤防除を行う。  
ウンカは、株元に生息しているため、防除の際は湛水するとともに、株元まで薬剤が十分かかるよう丁寧に散布する。

### 杵島管内におけるウンカ類の払い落とし調査(R2)

25株はらい落とし総数

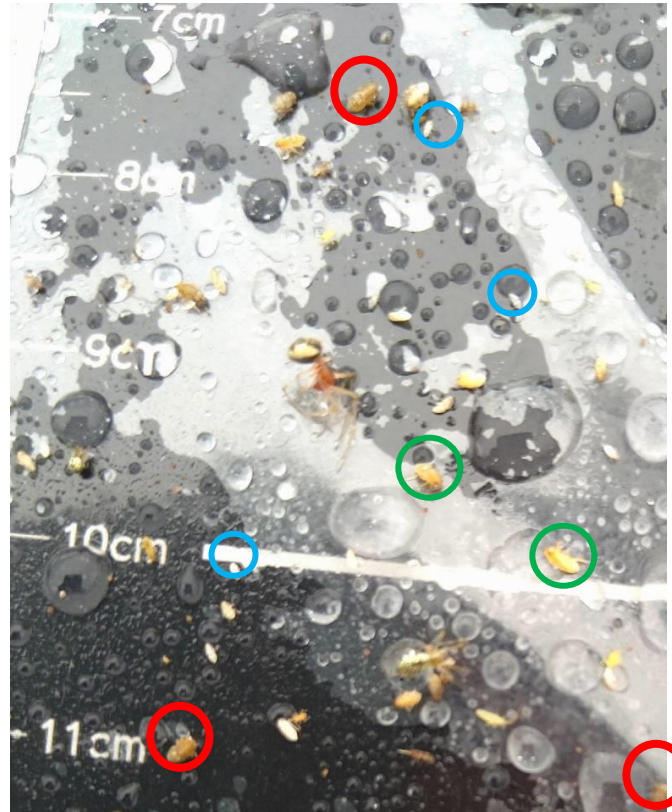
調査日	セジロウンカ		トビイロウンカ		ヒメビウンカ		備考
	幼虫	成虫	幼虫	成虫	幼虫	成虫	
7/27～30							
5月23日移植	0	0	0	0	0	0	夢しずく(北方町) ※トリフルメゾピリム <b>ヘリ防除済</b>
6月10日移植	60	0	12	0	15	0	夢しずく(白石町) ※ピメロジン(フェス剤)
6月10日移植	24	0	0	0	0	0	夢しずく(江北町) ※トリフルメゾピリム(播種同時)
6月10日移植	8	0	0	0	3	0	夢しずく(江北町) ※トリフルメゾピリム
6月13日移植	15	0	0	0	0	0	夢しずく(江北町) ※トリフルメゾピリム(播種同時)
6月14日移植	5	0	0	0	0	0	夢しずく情報田 ※トリフルメゾピリム
6月17日移植	2	0	0	0	0	0	夢しずく(白石町) ※トリフルメゾピリム
6月17日移植	4	0	0	0	0	0	ミズホチカラ(白石町) ※トリフルメゾピリム
6月19日移植	0	0	0	0	0	0	さがびより(武雄市) ※トリフルメゾピリム <b>ヘリ防除済</b>
6月20日移植	33	0	0	0	0	0	さがびより情報田 ※トリフルメゾピリム
6月20日移植	3	0	0	0	2	0	さがびより(白石町) ※トリフルメゾピリム
6月27日移植	0	0	0	0	0	0	ヒヨクモチ(白石町) ※トリフルメゾピリム
6月中旬移植	121	1	28	1	22	2	夢しずく(無処理) 幼虫はほとんど若令～中令

※7/27～30 現地巡回調査では、トリフルメゾピリム剤を使用している圃場の幼虫はすべて若齡。

トリフルメゾピリム以外の圃場では、移植時期によって異なるが第1世代成虫（短翅型）を確認し、株元は産卵痕を確認した。






トリフルメゾピリム剤使用していない圃場での払落し調査。  
 (上) 6/27 飛来虫の第1世代成虫(短翅型)  
 (右) トビイロウンカ幼虫が12頭



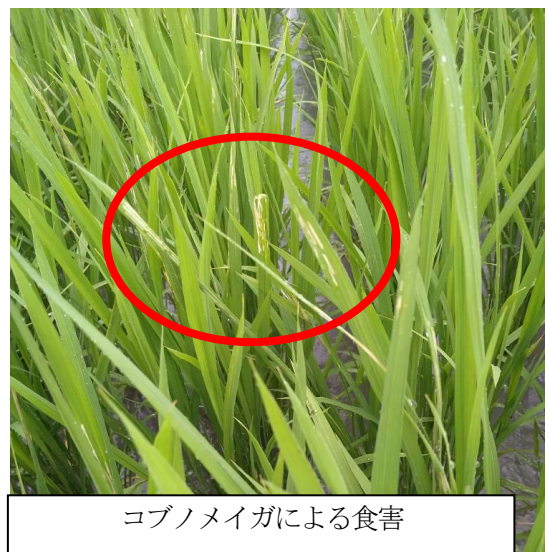
- トビイロウンカ幼虫もしくは成虫
- セジロウンカ幼虫
- ヒメトビウンカ幼虫

### ウンカ類幼虫の見分け方について

	若齢幼虫の体色	中～老齢幼虫の体色	水面での後脚の出し方
セジロウンカ	白っぽい	灰白の斑紋	 : 真横
トビイロウンカ	白っぽい	薄茶か茶褐色	 : 真横～やや斜め後ろ
ヒメトビウンカ	黄褐色	淡黄色か薄茶か茶褐色 (体側の色が濃い場合あり)	 : 斜め後ろ

### 3) コブノメイガ

- ・今年、6月10～15日頃、18日頃、25日～28日頃及び7月6～11日頃に飛来があった。  
 本年は、断続的に飛来がみられたことから、飛来波ごとの幼虫の出現時期は異なると予想される。  
 このため、1回の散布で全ての飛来波のコブノメイガを完全に防除することは困難であるが、トビイロウンカの発生状況も考慮して効率的かつ効果的な防除ができる時期に実施する。
- ・葉色が濃い圃場においてコブノメイガの食害が散見される。
- ・コブノメイガの防除適期は、発蛾最盛期の7日後(幼虫ふ化揃い期)である。  
 被害葉が多くみられる圃場では、蛾の発生状況に応じて臨機防除を行う。



コブノメイガによる食害

#### 4) 斑点米カメムシ

- ・山間早植えはまもなく出穂期を迎えることから、斑点米カメムシ類を中心とした乳熟期（穂揃い後10日目頃）の防除を徹底して、斑点米カメムシの被害防止を図る。
- ・出穂10日前までの畦畔除草は、耕種的防除の観点から効果的であるので実施する。  
カメムシはイネ科雑草を好むことから畦畔だけでなく圃場内に発生している雑草の除草も併せて行うよう努める。  
畦畔を100mあたり歩いてカメムシが3頭いたら、要注意である。

エノコログサやヒエが多発している畦畔はカメムシの住処となっている



#### 5) 紋枯病

- ・幼穂形成期以降は、各品種とも病気に対する抵抗力が弱まり、今後気温が高くなることから、紋枯病が一気に進展する可能性があるため発生には十分注意する。
- ・本病が発生している圃場では、病斑が上位葉の葉鞘に進展する前に防除を行う。  
(液剤、粉剤の場合は出穂10日～20日前の防除を目安とする)



紋枯病